

## 所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05-10-5/5）

### 目 的

『年報』『概要』『ニュース』など広報3誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は、媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を、対外向けに情報発信することにある。またそれらのデータはホームページ上でもPDFファイル形式で配信されている。

### 成 果

#### (1) 『年報』2009年度版の刊行

2009年度版の構成は従来通り、「機構」「年度計画及びプロジェクト報告」「その他の研究活動」「個人の研究業績」「研究交流」「主な所蔵資料」「研究所関係資料」「東京文化財研究所プロジェクト索引」とした。2009年度版の編集は年報編集委員会の協力を得て進められ、2010年5月31日に刊行された。

#### (2) 『概要』2010年度版の刊行

2010年度版は構成を見直し、「組織」「職員一覧」「東京文化財研究所の役割」「各部・センターの紹介」「調査と記録」「多様な文化財の概念」「文化財に関わる材料と技術」「環境と文化財」「修復する」「壁画の調査研究と保護」「日本から世界へ」「文化財アーカイブの役割」「“人”を育てる」「連携・交流・公開」「情報発信」「刊行物」「資料」と改めた。またその割付は従来通り、日英2カ国語を併記し、図版を多用した。

#### (3) 『東文研ニュース』の刊行

『東文研ニュース』の第41号-第44号の刊行

『東文研ニュース』の構成は従来通り、四半期ごとの活動報告、コラム、刊行物の案内、新人紹介、人事異動、案内などとした。編集は東文研ニュース編集委員会の協力を得て進められた。平成22年度の実績は下記の通りである。

No41 全16頁 2010年5月31日発行

No42 全16頁 2010年8月31日発行

No43 全16頁 2010年11月30日発行

No44 全16頁 2011年3月31日発行

また『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）第8号～第9号を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。

毎月、『活動報告』(Monthly Report)をそれぞれ日本語版・英語版のホームページ上に掲載するようにし、速報性の確保に努めた。また『活動報告』中国語版を新設し、情報発信の多言語化を図った。

#### (4) 子供向けパンフレット『東京文化財研究所ってどんなところ』の刊行

2009年度に引き続き、子供向けパンフレット『東京文化財研究所ってどんなところ?』の改訂版を刊行し、小学校児童・中学校生徒を対象にした文化財情報の発信に努めた。子供向けパンフレットもPDFファイルのデータとして、ホームページ上からダウンロードできるようにした。

### ③資料作成・公開 Area19

#### (5) 広報誌の配布

広報誌は、文部科学省・文化庁各部局、都道府県教育委員会、国および都道府県の美術館・博物館、埋蔵文化財センター、文化財研究部門をもつ大学図書館、大使館、友好協会などに配布した。

従来、黒田記念館や研究所受付・資料閲覧室における広報誌の配布に加え、『東文研ニュース』を東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、大分県立歴史博物館、東京芸術大学美術館、そして奈良文化財研究所へ、また子供向けパンフレットを台東区立小学校・中学校へ配布してきたが、一般者向けの広報をより一層強化するため、諸施設に対し、『概要』『東文研ニュース』および子供向けパンフレットの配置、配布を依頼した。

2010年度に配布の依頼を行った施設は、東京国立博物館、国立西洋美術館、上野の森美術館、国立科学博物館、国際子ども図書館、東京文化会館、上野動物園、東京都上野公園管理事務所、東部公園緑地事務所、国立東京近代美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、貨幣博物館、日本大学文理学部資料館、多摩美術大学美術館などである。

#### (6) 『独立行政法人国立文化財機構概要』2010年度版の編集協力

独立行政法人国立文化財機構の発足に伴い、『独立行政法人国立博物館概要』が『独立行政法人国立文化財機構概要』（以下『機構概要』）に改められた。そのため『機構概要』にも東京文化財研究所の紹介記事が掲載されることとなり、その編集を協力した。

#### (7) パネル展示の調整

研究所1階エントランスホールにおける研究成果の展示に関し、調整を進め、下記の通り実施した。

2010年3月5日～2010年7月19日

「日中共同唐代陵墓石彫保護修復プロジェクト」（文化遺産国際協力センター）

2010年7月20日～2010年3月28日

「国宝高松塚古墳壁画の劣化原因調査」（保存修復科学センター）

2011年3月29日～

「無形文化遺産の記録」（無形文化遺産部）

#### (8) 台東区立上野中学校におけるパネル展示

10月30日、台東区立上野中学校の空き教室を借用し、学校行事にあわせた展示を行った。展示は、中学校との協議を経て、過去に当研究所1階エントランスで行ったパネル展示「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」と「X線透過撮影による仏像の調査・研究」を再構成した。参観者数は教職員、生徒、保護者など300名であった。

#### (9) ピクチャーレールの設置

画像情報室前の廊下にピクチャーレールを設置し、研究成果の公表のための便宜を図った。

#### 研究組織

○勝木言一郎、田中淳、津田徹英、塩谷純、山梨絵美子、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）